

北海之光

9月号 北海道教区報

安らかに信頼している

ことにこそ力がある

イザヤ書 30章 15節

発行所 北海の光社

001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp

http://www.nssk-hokkaido.jp

発行人 植松 誠

「大風の主は、小舟の中に」

札幌キリスト教会牧師
有珠聖公会管理牧師

司祭 ペテロ 大町 信也

「安らかに信頼しているこ

きましよう。

とにこそ力がある」この聖書のみ言葉が今年の教区の聖句として選ばれた時には、新型コロナウイルス感染症によって私たちの生きる世界と生活が、これほど大きく影響を受ける事になるとは、誰もが予想もしていませんでした。「安らかさ」や「信頼」という言葉が今、大きな挑戦を受けています。

私たちとこの世界は、まるで嵐の中にあります。この嵐の中のどこに平安と信頼が隠されており、又どのようにそれを見出すのが私たちに問われています。

嵐の中に隠された平安について私たちが招く物語が聖書に記されています。マタイ・マルコ・ルカのいずれの福音書も取り上げている出来事ですが、マルコの記述(四三三〜四一)に添って見て行

夕方となりガリラヤ湖畔を闇が覆い始める頃、イエス様は、弟子たちに「向こう岸に渡ろう」と呼びかけられました。イエス様が指し示す「向こう岸」とは、弟子たちにとって近づく事をためらう「ゲラサ人」の住む土地でした。彼らの不安、恐れ、心の乱れを乗せたまま小舟は湖の中ほどまで進みます。沖合に出た時、激しい突風が起こり、小船は波をかぶり水浸しになってしまいます。闇に包まれた湖の真ん中で小舟は、進退きわまり風と波にもあそばされるばかりです。小舟の一同は、命の危険を感じてパニックに陥ります。しかし、そんな弟子たちの姿とは対照的に、イエス様は、(ともし)の方で眠っておられるのでした。弟子たちは思わず「先生、わたしたちが溺れてもかまわないので

すか」と叫びます。起き上がられたイエス様は、風をしかり、湖に「黙れ、静まれ」と言われると、風も波も収まり「すっかり風(なぎ)」となりました。

新共同訳聖書では、「すっかり風になった」と訳していますが、口語訳聖書では「大風になった」と訳しています。翻訳としては、こちらの方が、聖書の原文に即しているようです。ガリラヤ湖の嵐より、イエス様がもたらす「風」の方が、はるかに大きい事が示されます。しかもその「大風」の主は、弟子たちと共に小さな舟の内に臨在しておられたのです。

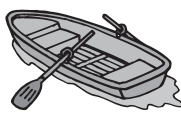
私たちの生活は、闇の中。嵐の中を向こう岸に向けて進む小舟のように感じられる事があります。コロナの現実に取り囲まれた時、一層その感を強くします。しかしイエス様は、「パニック」に陥っている私達と同じ小舟に乗り、命を共にしておられるのです。小舟の中で眠っておられるイエス様の姿は、「私達が、どうなってもかまわない」という無関心ではありませ

ん。そのイエス様の姿は、いつでも、どのような時にも、私達の小舟とその旅路の中に、真の平安は隠された形で臨在しているのだ、というしるしです。起き上がった風を静められるイエス様の姿は、「大風(おおなぎ)」。「平安」の主は、必ず立ち上がって下さるといふ事のはずです。

イエス様は、小船のような私たちの生活を、私たちの心をこそ、ご自身の居場所として下さるのです。私たちの生活や心の「小舟」の中に、「大風(おおなぎ)の主」。「平安の基」であるイエス様を、見出したいと思えます。

今や社会の合言葉は、「ウィズ・コロナ(コロナと共に)」一色ですが、このような時であるからこそ、私たちは「ウィズ・キリスト(キリストと共に)」「ウィズ・隣人(隣人と共に)」を忘れることなく日々を過ごしたいと思えます。

イエス様が同舟して下さっていることに信頼して、今日という一日を向こう岸へと漕ぎ出しましょう。





—心の窓をひらひら—

福音と私(二四一)

—今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか—



函館聖ヨハネ教会信徒

ハンナ 志賀 順子

私の好きな聖歌

「暗闇行くときには 主イエスがしめされた」

聖歌 四七六番

大好きな聖歌は他にも沢山ありますが、今一番心にある聖歌です。いつもこの聖歌を心の中で口ずさんでいます。

新型コロナウイルスと共に

暮らすことが世間では勧められるウイズコロナ、しかし世界にますます感染が広がっている現実には胸がふさがれます。

「光は闇を照らし 昼は夜をつつむ とりまく影をぬぐいて 光を仰ぎ見よう」

私は三代目の頼りないクリスチャンです。両親は明治生まれで、関東大震災と世界大戦を経験しました。身の回りの物、家、仕事など全てを失い何度もゼロから生きてきました。その中であつて教会との繋がりは、明治四〇年生まれのお父は幼い頃から母親に連れられて函館聖公会に通っていたようです。その母親は

三五歳の若さで亡くなりました。

女学生だった母は一九二三年関東大震災に遭い、倒壊した火災で住む家を失いました。一家で長兄を頼つて銚子に疎開しました。そこに銚子の教会がありました。松本正雄司祭とジョウ夫人が開拓伝道をしていらつしやつた頃です。家族ぐるみでお付き合いさせていたのだと思います。

一九二六年、父は仕事で満州に渡り、一九三四年に両親は結婚し、満州で子どもを五人授かりましたが、長兄は結核のために三歳で亡くなりました。敗戦翌年の一九四六年、満州からの引き揚げがやっと始まりました。私が生後四月、八月二五日頃のことです。

ハルビン(ハルビン)から新京(長春)を経て大連までの苦難な行程、貨物船で博多へたどり着くまで一ヵ月かかりました。祖父母、親戚の母子と父を含めた私達家族六人、知り合いになつた青年を加え一人の大所帯だったそうで

す。五歳の兄が途中迷子になり青年に探してもらえなければ、危うく残留孤児になるところでした。赤子の私も揃つて日本へ帰国できたのは父がいたからです。その頃の両親は三〇歳代でした。その壮絶な記憶はもちろん私にはありませんが、両親や伯父家族に聞かされて育ちました。その後、東京での約二年を経て函館に落ち着き、弟が生まれました。苦しい生活の中でも教会の方々に支えられました。親から苦しいとか大変とか不満や愚痴を聞いたことがありません。その生き方に、年齢が両親に近づいている自分が重ねると行動力のなさ、弱さが身にしみえます。

私は小さい時から今でも恥ずかしがり屋です。できることなら皆さんの前に出たくありません。何とか夫に支えられて今日があります。とんでもない困難や、心配が次々降つて来ますが、目に見えない力で背中を押されているように感じています。

この目に見えない力、授かった命、備えられた道、全ては聖霊のお導きです。神様の枝に繋がっている私達は教会でも社会にあつても神様から頂いた言葉を大切に思い、父母から培われた信仰のタネを大切に育てて生きたいと願っています。

教会では信仰をもつ大切な友人たちといつも支え合うことができます。

「悲しみは喜びに 争いに平和を 死の中には命を さあ光を灯そう」

コロナで苦しむ人が少しでも減りますように祈ります。

家で気持ち晴れないときも、日曜日礼拝に行きますと自然に笑顔が出てきます。全てを神様に委ね、主の大きなみ手の中で生かされていることに感謝します。

そして今、病と闘っている娘の回復をひたすら祈り続けています。

ひたすら祈り続けています。



常置委員会報告
第一回 八月一七日

《協議事項》

一、コロナ対応に関する件
・九月も引き続き八月と同様の対応を各教会・信徒に求める事とした。

二、コロナ対策に関する補助の件
・教区内の教会が、換気設備の設置工事など、新型コロナウイルス対策を行う際に、教会の申請により三〇万円を上限として費用を教区が補助できるものとし、費用が三〇万円を超え

る場合には、別途、常置委員会に諮り決定する事とした。
三、新型コロナウイルス感染症の広がりを受け、教区内各教会に対する財政支援に関する件
・各教会に対して実施したアンケートや今年度の教区予算

の執行状況に鑑み、今年度は各教会からの教区に対する年間奉献額の一二分の一を減ずる事とした。
四、新札幌聖ニコラス教会外壁補修に伴う建築融資金申請に関する件
・申請を承認した。
五、阿部恵子執事の人事に関する件
・八月二一日付で帯広聖公会



主教室より

このコロナ禍の時、それぞれの教会では対策を講じながらの礼拝続行。いろいろな面で困難があり、聖職も信徒も頑張ってくださいっています。一方、そのような中でも堅信式があることはこの上なく嬉しいことで、私たち皆が大きな喜びに満たされます。特に、ここ数か月の間には、長い間を経て受洗、堅信に導かれた方が数名おられ、それだけのその時に至るまでの長い一日一日の積み重ねを思うと、奇跡としか思えない、神様の不思議なお導きに深く感じ入ります。

ご本人の求める心、家族のつながり、教会の人た

ちとの交わり……。それら、様々な要素が編みなしていく過程で、ゆつくりと実が熟すように、数年かかって、あるいは一〇数年、いえ、二〇数年もかかって、時には私たちが忘れてしまっているうちに熟し切っていく、ほろっと神様の御手に落ちるのです。

私たちは不完全です。祈っても祈っても自分の思い通りにならないとなると絶望しそうになります。いくら祈っても……。という思いが先立つ中で、半分あきらめながらも、やはり祈ります。決して強い信仰で、「神様のみ心だから」と宣言できる者ではありません。それでも、なんとか細い糸をたぐるように、祈り

続けます。砂漠に種をまくような思いです。そしてある時、その種が決して忘れ去られず、時が来ると実を結ばせていただけるという現実に出会い、おののくことがあるのです。結果は私たちの思い通りではありません。それを超えたものです。私たちの祈りは不完全であっても、それを聞いてくださる神様の憐みは想像を絶します。大きな御手があちちへ行ったところへ来たり……。としながら、必死でみ心を追い求め、憐みを注いでいてくださることを、改めて感謝する日々です。

主教 ナタナエル 植松 誠

公 示

救主降生 2020年8月22日
日本聖公会北海道教区
主教 ナタナエル 植松 誠

司祭 エリザベツ 阿部 恵子

2020年8月21日付で、帯広聖公会牧師補の任を解き、同22日付で、帯広聖公会副牧師に任ずる。

六、教区会に関する件
・日程：十一月二三日(月・祝)、札幌キリスト教会礼拝堂を会場として開催することとした。またリモートによる参加が可能な準備を行うこととした。書記に(長) 吉野暁生司祭、上平更執事を選任した。

堅信式受領
おめでとう

新札幌聖ニコラス教会

テレサ 佐々木 優子

八月一六日

釧路聖パウロ教会

ヨセフ 及川 正二

八月三〇日

十 教区逝去教役者
記念聖餐式

一〇月一四日(水)

午前一〇時三〇分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司祭 森 安延 衛

一九四五年一〇月九日

主教 八代 斌 助

一九七〇年一〇月一〇日

伝道師 笠間 伊太郎

一九〇一年一〇月一五日

司祭 芥川 寿哉

一九七五年一〇月二〇日

伝道師 石川 光子

一九六八年一〇月二一日

司祭 江口 博

二〇〇三年一〇月二二日

司祭按手式報告

―執事エリザベツ阿部恵子師 司祭に叙任される―

コロナ禍で

当初、五月一六日(土)に予定されていた司祭按手式。新型コロナウイルスにより延期。しかし、七月一三日付にて主教より公示が出て、八月二二日に行うことになった。その間も、札幌の新型コロナウイルスの感染状況を注視しながらの備え。さいわいにも当日を迎えることがゆるされた。

永谷司祭の説教

八月二二日(土)午前一時、全道から信徒・聖職、六〇名ほどが、札幌キリスト教会主教座聖堂に集められた。天の全会衆と共に、司祭按手式は、始められた。

永谷亮司祭が説教を担当。

永谷司祭は、出身教会(聖マーガレット教会)を同じくする司祭志願者・阿部恵子執事との出会い、二〇〇六年の留萌



キリスト教会における召命黙想会の思い出、信徒時代、神学生時代、そして現在帯広聖公会において協働する聖職として、実に一五年に及ぶ間柄から話された。永谷司祭でなければ語り得ない説教であった。とくに、阿部恵子先生が

聖職を志す体験にふれ、「阿部恵子先生は伴侶を亡くすという体験から、終末期の臨床

牧会、大切な存在を亡くされた方々へのグリーフケアを学び、悲しみのなかにある方々へ寄り添ってこられた。」と。

永谷司祭の言葉は、阿部恵子

先生の召命と歩みを示し、公会の司祭に叙任される者への召命を喚起させ、かつ、あたたかい祝福の言葉に満ちていた。

新司祭誕生

式は：推薦(推薦者 松

井新世司祭・尾関敏明さん)、そして司祭志願者への諮問。その後、嘆願へと続く。木村夕子司祭の澄んだ声が嘆願を導く。

主教の先唱で聖霊を求める歌を唱和し、クライマックスの司祭聖別。植松誠主教の手が、主教の前に進み出て跪いた阿部恵子先生の頭に置かれた。取り囲むように司祭団の手も共に置かれ、植松誠主教

の祈りの声が聖堂いっぱい



あたたかな祝辞

今回、新型コロナウイルスの感染防止のため恒例の祝会(食事会)は省かれた。

礼拝後、聖堂内で、帯広聖公会を代表して橋本知樹さんが、友人を代表して藤井玲子さん(聖マーガレット教会)が、新司祭へ祝辞。

橋本知樹さんはユーモアをまじえて「フランスのジャンヌ・ダルクのように私どもも帯広聖公会信徒を先頭に立って引っぱって行って欲しい」と、期待を込めて語られた。

藤井玲子さんは、聖マーガレット教会の信徒としての交わりから「静かに寄り添ってくれる恵子先生のやさしさといたわり」の体験にふれ、司祭としての今後の歩みを祝福する言葉を伝えられた。

制約のなかでこそ、味わえる祝福の言葉がある。静かな聖堂内で、聴く者のところに沁みた。

(文責・司祭池田亨)

新司祭の誕生は公会にとって、北海道教区にとって喜びである。そして、とりわけ帯広聖公会にとって喜びである。幾重もの喜びが司祭聖別にはある。阿部恵子司祭は、その日付にて帯広聖公会副牧師に任命された。

祈りは続き、主教と共に聖餐の司式を新司祭も担った。

公会の司祭に按手されて

主の平和がありますように。

新型コロナウイルスの世界

的拡大により、一度は中止された按手式でしたが、皆さまのお祈りによって、八月二二日に無事に終えることが出来ましたことを感謝していま

す。
一七年前、苦しみの大きかった頃、「私にも何か誰かのお役に立てることがありますか」と小さな声で神に問いかけ、希望の道を探し出すことを目標に歩いた道が、この度の按手に繋がることになったように思います。神のご栄光が表現されている言葉として、祈り書には栄光の唱があります。そこには、「わたしたちが求めました思うところの一切を、はるかに超えてかなえてくださることができるよう方」。つまり、私が歩いていた道には神が共に居て絶えず導いて下さったものと考えることが出来るのです。このよ

うな、私には一貫して支えて

また二度目は一人で終えた聖

餐式に安堵感と緊張感から少し解き放たれたように感じて

います。このように頼りのない私に司祭職が授けられたのですが、私のノンクリスチャーの友人で、四〇年間変わら

ず友でいてくれる人がいます。彼女は神学院へ旅発つ私に「あなたはきつとあじのある牧師さんになると思うよ」と言ってくれました。「あじのある」と言うのはどのような意味かと問いますと、あな

たのこれまで起こった苦しみの、悲しみも、喜びも全て自分の基として色々な立場の信徒さんの話を聞いてあげられるような牧師さんになるだろう、という意味でした。ですから「あじのある牧師」を目指して更なる歩みを神と共に

続けて行くこうと思います。

「主はあなたの出ると入るとを守られる」

聖職候補生
エリザベト 三浦千晴

りいただき、またお支えいただきありがとうございますこと、心より感謝申し上げます。

今年には新型コロナウイルス感染症対策のため、新学期が五月から始まりました。授業形式も対面授業のほか、オンライン授業も行われました。慣れないことに初めは戸惑いを

感じておりましたが、神学院スタッフのご助力により、滞りなく授業を受けることができました。三年次になり学びの中心は、これまで蓄積してきた知識を自分なりのことばに言語化し、人に伝える方法を身に付ける、ということに移行してきているように思います。東京教区は主日礼拝がしばらく休止されておりまし

たが、帰省前までに二度程、今年の主日の教会実習先である聖救主教会の礼拝に出席させていただきました。

神学院での学びは、非常に多岐にわたり、またその一つ一つが大変深遠なものであるように思います。ですからそれを理解するには困難さが伴

います。たぶんそれは、机上の学びだけでは十分に体得することは難しいのではないかと思います。教会の日常生活の上での活動、そして実習が必要なのです。コロナ禍により人と人との接触が制限されている昨今、そのことを強く考えさせられております。

詩編一二二編は、巡礼出発の歌にふさわしい信頼の歌であり、「主はすべての災いからあなたを守り 命を支えらる」とを祈る 今より、とこしえに至るまで」(「祈り書」八八九頁)という言葉で結ばれております。神様から日々み言葉をいただいている私たちは、それを受け取り身に結び、隣人の求めに応えるため、

今年、主日の教会実習先である聖救主教会の礼拝に出席させていただきました。

神学院での学びは、非常に多岐にわたり、またその一つ一つが大変深遠なものであるように思います。ですからそれを理解するには困難さが伴

います。たぶんそれは、机上の学びだけでは十分に体得することは難しいのではないかと思います。教会の日常生活の上での活動、そして実習が必要なのです。コロナ禍により人と人との接触が制限されている昨今、そのことを強く考えさせられております。

今年、主日の教会実習先である聖救主教会の礼拝に出席させていただきました。

今年、主日の教会実習先である聖救主教会の礼拝に出席させていただきました。



▽新冠^{にいかつぶ}聖フランシス教会

八月は先に逝かれた方々へ想いを馳せる月です。九日(聖霊降臨後第一〇主日)、この方々を顕彰する逝去者記念聖餐式が執り行われました。そして礼拝後には、今年二月二日(被献日)に逝去された敬愛するボアズ奥田康嘉さんのご遺骨を地下の納骨室にお母さんのナオミ静江さんと並べて安置しました。

一五日(土)午後、判官館墓地にて墓前礼拝を行いました。全部で六家族の墓所にて祈りを献げましたが、雨に当たることもなく大勢の方々がお集まりくださいました。

▽小樽聖公会

八月はトラブル続きでした。九日(日)は教会玄関の

外壁からスズメバチが出入りしているのを発見。玄関の壁の中の空間に巣がある模様。退治しようとした信徒さんが頭を刺される事態にもなり一時騒然としましたが大事に至らず安心しました。後日駆除業者依頼するも、生き残りが玄関内のどこかのすき間や穴から出てきているようで不安が残ります。一三日午後は水道の水が突然茶色に。原因は教会近くの水道管の破裂。水道局からの給水支援も受け、数時間後にはいつもの水に戻りました。

▽岩見沢聖十字教会

八月一六日、大友正幸司祭による逝去者記念礼拝。美唄と岩見沢に関わった方々の名前が読み上げられる。ナザレで奉仕をされている本間初美姉からお菓子が届く。感謝して戴く。

「私たちの国籍は天にあります。ピリピ三・二〇」

一七日、笠井咲子姉のご逝去。昭和・平成・令和の各時代を歩んだ九二歳の生涯。御国での再会を待ち望みます。夏休み期間中、園舎外壁工事を実

施。素敵な濃い緑色に生まれ変わりました。そして、職員と園庭設計士と共に新たな手作りの遊具が多く完成。

▽稚内^{わっかない}聖公会

八月の礼拝は九月一日。礼拝後、長く大工さんをされていた隣家のご主人に教会建物の診断をお願いする。隅々まで丁寧に見てくださった。老朽化は著しいが、危険な箇所はなく、土台も柱もしっかりしているようだ。猫が狙っていた風呂場の窓もコンパネで塞いでくださるとのこと。奥様は教会までなくなったらほんとに淋しいとおっしゃる。地域とのつながりのありがたさを感じた。かつて見た盆踊りの光景がよみがえってくる。

▽帯広^{しんぐら}聖公会

当教会定住の阿部恵子執事が八月二二日、主教座聖堂において主の御心と聖職信徒の祝福の内、司祭接手の恵みに与りました。北海道教区そして帯広聖公会信徒にとって大きな喜びの出来事。今後のご

活躍とご健勝を心からお祈りします。続く二三日、阿部新司祭による初ミサが行われ、司祭、信徒共々多少の緊張のうちにも聖餐の恵みをいただきました。心から主に感謝。

八月は戦争に纏わる「鎮魂と平和への祈りの月」、六日「広島原爆記念」、九日「長崎原爆記念」、一五日「終戦記念」の各点鐘礼拝が行われました。一二日、婦人会を中心に草取り作業奉仕。折から気温三三度の猛暑の中ご苦労様でした。

▽函館^{はこだて}聖ヨハネ教会

久保田姉、佐藤・丸山夫妻ら信徒の皆さんひとり一人の力で、ヨハネ教会の庭はいつもきれいに花が咲く。感染防止対策を万全に七月よりオーブンチャーチを継続、観光地の一角で万民に開かれる教会再び。市内小学生らの訪問学習もあり、コロナを心配しつつも心温まる教会の姿。信徒による文集「花みずき」は志賀夫妻に支えられ第五五号が発行。一日マリヤ青木榮子姉・エウニケ高村セツ姉逝去記念式、二二日アンデレ外崎邦義

兄墓地聖別・埋葬式、二七日森勝敏兄、二九日マリヤ鈴木愛子姉のご逝去、魂に主の平安を。

▽紋別^{むねべつ}聖マリヤ教会

八月に入り、厳しい暑さの中で礼拝。聖餐式のある時は、信徒の様々な要求・新型コロナウィルス感染拡大対策などに応えるために、より面積の広い幼稚園ホールを使用して礼拝。

八月九日、植松主教司式のもと聖餐式。昼食を挟み、午後から墓地礼拝。二六日、幼稚園誕生会で植松主教がチャレンとして奉仕。前田園長は窓の開放を頻繁に行うために、網戸の製作等に継続して奮闘されており。九月に入ると気温差が大きいと予想されるので、対策を継続中です。

▽平取^{ひらとり}聖公会

八月のお盆を過ぎて三〇度を超す暑い日が一週間続いた平取ですが、月末には雨が来て急に涼しくなり、ストーブの出番となりました。新型コロナウイルスの感染開始の頃には「暑くなれば終息する」

との専門家の意見がありました。国内も世界各国も一向に収まりません。対応に苦慮した首相が辞任することになりました。

記者は昨年身内から自動追従走行ができる古い車をもらい乗っています。速度を設定すればアクセルから足を離しても衝突せずに走ってくれます。高齢者の私には良い装備と感じています。教会まで二五キロの道が守られています。感謝。

▽札幌キリスト教会

太平洋戦争に思いを馳せる八月。六日、九日、一五日に平和を願う祈りと黙想が行われました。一日に森永澄子さん、三十一日に中村紀建さんご逝去。魂の平安をお祈りします。二二日、阿部恵子師の司祭接手式が聖職を含め約八〇名の臨席で行われました。今年には長寿会が例年のように出来ずステイホーム中の方も多いため、教会よりメッセージDVDを贈ることとなり、収録・編集などの作業が進行中。よりみちマルシェは毎週木、日曜日に開催中。雑

貨・衣料・ケーキとドリンクのテイクアウトが好評です。

▽新札幌聖ニコラス教会

新型コロナウイルス禍にあつて、慢性的な閉塞感など感じていると思います。教会に足を運ぶことに躊躇される方も多くなりましたが、本教会では、ノア上平先生が毎週の週報を郵送してくださったこともあり、繋がりを維持することができています。八月は、本教会にとって大変喜ばしい時がありました。植松主教の巡回日に合わせ、長く準備をされていらした佐々木優子姉の洗礼堅信式を執り行うことができました。この日は、二二名の出席者が多く多くの人が喜びを感じる機会となりました。神様からの祝福に大きく感謝申し上げます。

また、懸案となっていた会堂の外壁塗装が始まりました。教会維持に向け、計画的な準備の大切さを改めて感じております。

▽札幌聖ミカエル教会

教会に車椅子二台が寄贈されました。従来より格段に軽くてびっくりです。

今年には埋葬式を二二、三〇日の二回に分け、円山墓地に七名が埋葬されました。現在、聖公会神学院、信徒・召命コースに在学中の直井岳さんが帰省、二三日、近況や神学院での学びについて奨励をいただく。後期の豊かな学びと霊的な修養のために祈ります。二九日、久々にサーバー研修会を実施。現在中学生から大人まで七名のサーバーがご奉仕中ですが、みんな真剣なまなざしで基本動作から確認しました。九月二十七日、現

▽有珠聖公会

八月二三日、主日聖餐式。礼拝後、有珠地区の地域おこしの一環として計画されている聖堂のライトアップについて、メリット・デメリットの両面から意見交換しました。例年行われてきた秋のバザーの中止を決めました。

八月に入り、団体を含めバチラー夫妻記念室を見学される皆さんが多くなってきました。白老のアイヌ民族博物館

▽留萌キリスト教会

蒸し暑い日が続いたと思え

ウポポイ開館の影響もあるようです。

▽釧路聖パウロ教会

八月二日、札幌聖ミカエル教会の福富牧子姉、九日足寄町より村野義和兄が来訪され、祈りを共にされる。来客嬉し。

二二日、氏家委員、春田、及川、佐田の強力チーム編成し厚岸教会の扉を開く。清掃、窓ガラス拭き、カーテン更新と尊い汗を流す。三〇日、激しく雨降る中、主様ご夫妻をお迎えし、洗礼・堅信式が行われる。主が呼ばれ 及川正二兄が「はい」と応えられる。春田ご夫妻が教父母を務められる。八か月振りに津田正子姉も出席され喜びの輪の中へ。代祷で紋別聖マリヤ幼稚園を覚えて祈る。前田園長駆け付けて下さる。コロナ吹き飛ばす。喜び、感謝の一刻!! 遠藤由美子姉、ご主人の逝去記念に聖書を捧げられ主様の祝福を戴く。

▽室蘭聖マタイ教会

七月第四主日礼拝中に女性の来訪あり、礼拝後お話を伺うと大正時代父親が登別聖公会に通っていた事を思い出して来てみまされ、名前記入献金され帰られる。厚い日が続く中、会計の山本兄駐車場の草刈りをして下さる。感謝です。

ば急に冷えた八月の留萌。感染症予防のため、第二と第四日曜日に聖餐式、それ以外はみ言葉の礼拝を行っています。重症化リスクが高い人が多い教会としての対処です。

八月九日に主日礼拝に続いて墓地礼拝を行いました。昨年九月に逝去されたバルナバ池田聖司さんのご遺族と共に遺骨を納めました。妻の久子さんは安堵のご様子。テレジア千葉雅子さんは九月に札幌で入院の予定。信徒一同、健やかな快復と無事の帰還をお祈りしています。

八月九日吉野司祭による聖餐式の後小雨の降る中、墓地礼拝、小林夫婦、山岸さん参加、故白藤久枝様の納骨式、

御家族信徒の見守る中遺骨を納められる。二三日吉野司祭による聖餐式。礼拝後新約聖書の輪読会を再開する。

▽今金インマヌエル教会

未だコロナウイルスと言う脅威を抱えながら、九日と二三日に礼拝を守られた事に感謝します。そして墓地礼拝ではスズメ蜂に怯えながら

も、何とか各家の墓前に祈りを捧げられてホッと二安心。又、境内地草刈り作業も、農繁期の為、出来る方が出来る

時にとお願いする形に成りましたが、無事終了し感謝!!八月は八名の方が教会に足を運んで下さいました。東京より来られた親子が汲み取り式トイレに絶叫し「良い経験に成りました。」と喜んで帰られましたとさ…めでたしめでたし…

▽網走聖ペテロ教会

八月九日は墓地礼拝。午前には全逝去者記念聖餐式、午後には教会墓地にて墓参の祈りが行われ、多くの方々が来られ心より感謝。二二日は主教座聖堂にて執事エリザベツ阿部恵子師の司祭接手式が執り行

われ、教区に新司祭が誕生しましたことは大きな喜びです。涙と共に種を蒔く人を喜びの歌と共に刈り入れさせてくださるお方によって羽ばたかれますよう、感謝のうちに

▽北見聖ヤコブ教会

七月二四日司祭長女小泉マナ姉が第二子無事出産。明るいニュースに感謝です。三六度を超える日もあったり肌寒い日もあったりの北見

です。八月二日は墓地礼拝で通常の聖餐式の後、二時半より納骨堂前にて墓参の祈りが行われ逝去者名が読み上げられ、ヒムプレーヤーの調べが響き渡り祈りの声がこだましました。二二日の執事エリザベツ

阿部恵子師の司祭接手式に司祭も出席、新司祭の誕生、心より感謝。司祭も新司祭の前に跪き祝福をいただきましたが、まわりから感謝と感動の泣き声が聞こえました。コロナ禍の中、希望が灯されました。

▽聖マーガレット教会

八月七日(金)、強風の中、

藤野「聖山園」聖マーガレット教会墓所にて、四月に逝去された小林美和子さんの埋葬式(納骨)を執り行う。

一五日(土)、主の母聖マリア日。小山スゲさんの当教会への受け入れを入所先の施設にて祈りをもって行う。他教派からの転入。

一九日(水)、司祭接手前のリトリートが、当教会にて行われる。札幌は記録的な暑

さ。午前、植松主教の講話。午後、下澤司祭指導による聖餐司式の実習。暑さの中、阿部恵子先生、奮闘。

▽旭川聖マルコ教会

コロナ対策で声を出して歌うことは出来ませんが、奉獻時聖歌を弾いています。早く歌うことが出来ますように。

婦人会も九月よりお仕事会で保育園のおやつ作りを再開。能勢仁和さんが持ち運びのできる十字架と燭台を作成、寄贈下さいました。野外礼拝等に活用したいと思ひます。感謝。

九日は墓地礼拝が行われ、三九名の参加があり、長く納骨堂に安置されていた方の遺

骨を合葬いたしました。故人の平安をお祈りいたします。頌栄保育園では、一日には人数を控えて「夏を楽しむ会」が行われ、二五日には江丹別の畑で「芋ほり遠足」が行われ、沢山の収穫に恵まれました。

▽深川聖三一教会

八月八日、主教様は紋別への巡回途中お立ち寄り、保育園新任職員への贈呈聖書を託される。一二日、保育園の光の子の礼拝で、新任職員六名に最新訳聖書をチャプレン代行して贈呈。墓地礼拝は一三日納内で、一四日深川で、一五日内園、音江、丸山で行う。ここでは一年ぶりに再会する方々があり、一笑し、そしてまた別れる。二八日、東北教区越山健蔵司祭夫妻礼拝

に出席。保育園と職員が神様に守られることを光の子の礼拝でお祈りし、主イエスの病気のいやしと悪鬼追放、薬の有難さがチャプレンにより語られていきます。

▽苫小牧聖ルカ教会

いかがお過ごしでしょうか。聖ルカ教会はコロナ対策

をしながら、毎週礼拝を続けることができています。コロナ禍にあつて聖餐を受けられることはとてもありがたく嬉しいものです。例年通り二日に墓地礼拝を行いました。またコロナで中断を余儀なくされていた聖書輪読会も再開し、創世記から読み始めました。少人数でも息長く続けていきたいと願います。なかなか会えない信徒たちの近況報告も吉野司祭の発案でなされ、数人から近況を知らせるお手紙もあり、ほっとします。一〇日、サムエル原口隆夫兄が天に召されました。礼拝堂に換気扇を付ける工事も行いうことになり、冬に向けて空気が滞留しないようにしていきます。

